

大蛇キッズ 代表

近藤 亜砂子 さん



ドッジボールを通して  
大切なことを学んでほしい



1チーム12人で競技時間は5分間。  
残り2秒で逆転することもあるスピーディなスポーツ。

18年前に小学生のドッジボールチームを立ち上げました。体が弱く、人と接することが苦手だった長男に、何かスポーツをさせたいと思っていたときに、たまたま募集中していたドッジボール大会に興味を持ったことがきっかけです。1回きりのつもりが、長男も楽しめたようで、即席チームで別の大会にも出場したのですが、公式大会だったため「ルールも知らずに何をしにきたのか?」と叱責されてしましました。そのとき初めてドッジボールに公式ルールがあることを知り、驚きました。

そこから、子どもたちが試合に出場できるよう必死にルールを勉強し、チームが勝つために独学で練習メニューなども考えました。市内には他にチームがないので、練習試合をするのも一苦労です。

大会にも出場したのですが、公式大会だったため「ルールも知らずに何をしにきたのか?」と叱責されてしましました。そのとき初めてドッジボールに公式ルールがあることを知り、驚きました。

18年前に小学生のドッジボールチームを立ち上げました。体が弱く、人と接することが苦手だった長男に、何かスポーツをさせたいと思っていたときに、たまたま募集中していたドッジボール大会に興味を持ったことがきっかけです。1回きりのつもりが、長男も楽しめたようで、即席チームで別の大会にも出場したのですが、公式大会だったため「ルールも知らずに何をしにきたのか?」と叱責されてしましました。そのとき初めてドッジボールに公式ルールがあることを知り、驚きました。

県内や九州内だけでなく広島や大阪に遠征に行くこともあります。長男が卒団しても続けているのは、子どもたちの成長を見守ることにやりがいを感じているからだと思います。卒団した子どもたちが遊びに来て「あの頃は楽しかった」と言ってくれる時は本当に嬉しいです。

スポーツなので勝つことは大事です。しかし、それ以上に努力することの大切さや仲間を思いやる気持ちを育んでもらいたいです。

ゲーム機で遊んでいるだけでは学べないことを、ドッジボールを通して伝えていけたらと思います。最近はいくつかの大会で優勝するなどチームも上り調子なので、今年は県で1チームしか出場できない全国大会出場を目指して頑張っていきたいです。

▼特集で紹介した猿渡瞳さんが亡くなられて9月で15年。中学2年生という若さでこの世を去った瞳さん。同世代の子を持つ親としては、その姿をわが子に重ね、ささいなことでもけんかばかりだけど、

元気でいてくれることに改めて感謝▼この機会に、家族皆さんで瞳さんの軌跡を知つていただき、この世に生を受けってきたこと、今を生きることの大切さを改めて感じてもらえた

## 編集後記

## 押し花文化 のふるさと・おおむた

作品名 Sun flower

作 者 井手 智奈美

まっすぐに太陽に向かって大きな花を咲かせる“太陽の花”ひまわり。まるで生命のエネルギーに満ちあふれているように、鮮やかな黄色が元気をくれます。抜けるような青空、照りつける太陽、鳴り響くセミの声、暑い日が続く8月もビタミンカラーの押花絵で心をリフレッシュしたら、思いっきり夏を楽しんでみましょう！



大牟田押花の会